

夏目漱石の 満州旅行

明治四二(一九〇九)年の秋、
「朝日新聞」の専属作家であった漱石は、
「それから」を書き終えると
満州への旅に出発します。
翌年には別の作品を書く義務もあつたのですが、
満州旅行自体も特派員＝紀行文執筆という
義務を負つてのものでした。
そして、そのおかげで我々は
現地での漱石の動向や当時の満州の様子を
つぶさに知ることができるのです。

第1回 2022年
12月18日(日) 午後2時～3時30分
結集するエリートたち

満州で漱石は、驚くほど多くの学友や教え子たちと再会し、旧交を温めます。いずれもバリバリのエリートたちで、そのことは明治日本の満州に対する力の入れようを雄弁に物語っています。そうした「人的資源」だけでなく、満州には、鉄道・都市を始めとしてさまざまな近代文明の粋も投入されました。そうした百花繚乱の満州の様子を帰国後に書かれた紀行文「満韓とところどころ」から見ていきます。

第2回 2023年
1月15日(日) 午後2時～3時30分
女性たちとのニアミス事件をめぐる

近代文明の粋だけでなく、満州には保養施設のたくいも多くもうけられ、多くの接客業の女性たちも渡満してきていました。おそらく漱石の生涯の中で一時期にこれほど多くのその種の女性たちと出会ったことはなかったでしょう。「満韓とところどころ」や日記からもその様子はうかがえますが、そのニアミス体験は翌年『門』という作品のなかに生かされます。そんな観点から『門』を読み直していきます。



講師 藤井淑禎
ふじい ひでただ

立教大学名誉教授
専門は、近代日本文学文化、戦後大衆文化、ミステリーなど。著書は、「小説の考古学へ」「清張 團う作家」「清張ミステリーと昭和三十年代」「高度成長期に愛された本たち」「名作がくれた勇気」「純愛の精神誌」「望郷歌謡曲考」「御三家歌謡映画の黄金時代」「漱石紀行文集」「90年代テレビドラマ講義」「乱歩とモダン東京」「水上勉—文学・思想・人生」など。

【場 所】東武博物館ホール

東武スカイツリーライン 東向島駅下車

※詳しくは裏面をご覧ください。

【定 員】60名(応募多数の場合は抽選)

※政府・自治体の要請等により、定員を変更する場合があります。

【参加費】無料

【応募条件】第1回・第2回の講演は2回1セットの応募(個別の応募はできません)

【主 催】東武博物館

参加費無料

【応募方法】ハガキとインターネットによる2通りの応募が可能です。

ハガキの場合 ▶ 裏面に「講演会タイトル」を明記の上、お客様の氏名(フリガナ)、性別、年齢、郵便番号、住所、電話番号をご記入いただき、ご郵送ください。

インターネットの場合 ▶ 東武友の会のホームページ(www.tobu-tomonokai.co.jp)にアクセスの上、「向島文化サロン」のバナーをクリック。

上記同様の必要事項をご入力の上、送信してください。

【宛 先】〒171-8512 東京都豊島区西池袋1-1-25 東武友の会「向島文化サロン」T係

※一度に複数名のご応募はできません。
(複数名が記入されたハガキは無効となります。)
1回の応募で1名様のみ有効となります。

締 切 2022年11月16日(水) 必着 ※当選者には約1週間を目途に、当選ハガキ(入場券)を発送させていただきます。

【お問合せ】 東武友の会 TEL.03-5951-5248 www.tobu-tomonokai.co.jp